

HIO YOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

1989. 2 . 19号



「ともに生きる」をテキストに熱心に研修

「ともに生きる」をテキストに熱心に研修
どうか本日の研修会は皆
様全員に関わって下さった
内容でもありますが、方向
づけであります。どうかこ
の場ではきたんのない研修
として頂き、現場において
皆様と率直に話し合い、聞
法ができるというリーダー
シップを取って頂ければこ
の上のことはないと考えま
す。

午後午後にはわたって研修
テキスト「ともに生きる」
の絵を担当して頂いたイラ
ストレーターの方、西脇男氏
も加わり西池哲俊師、西脇
修師よりテキストの編集、
内容に関する説明と講義が
あった。

その後、組での実際の同
朋講座に添った形の時間配
分で杉本昭典師に講義を頂
き、引き続き藤栄行信師の
司会で活発な話し合いがあ
り午後四時終了した。

質問のなかには「この同
朋運動は真宗教団の歴史の
上で教団のなかで差別され
苦しめられてきた僧侶、門
徒が提唱した運動か、また
浄土真宗のご信心の中から
必然的に生まれ出でる生
活実践の運動なのか」と、
受講者全員が運動の根本に
ついて考えさせられる質疑
もあった。(二ページにテキ
スト内容の一部)

一月十九日朝からの雨のなか神戸別院において組職・寺族同朋講座講師研修会が開催された。

今年度から始められるこの研修会の講師には二十三人が委嘱され当日は十七人が参加して行われた。

研修会に先だつて小滝教務所長より次のようなあいさつがあった。

かつて同朋講座は組独自のものでありましたが、今日では三十九組の内半数ぐらゐの開催、助成金申請しかない事実であります。

どこに問題があるかと考えさせられることでありますが、その中で教区内における差別問題の提起がございまして、その対応等今日重ねて来ておりますことでもあります。そうした逆縁が講座を進めて行く方向でいいご縁となるという意味で、基推委の同朋専門委員会、併設されております教材作成委員会、また学識経

「ともに生きる」自覚を 同朋講座講師の研修会

今年度に入りまして時間的なこと、人事的なこともありまして誠にみなさんに御迷惑をかけたが、やっとなら、体制、教材、プログラム、実施日程等が伴ってまいりました。皆様のおかげと喜んでおります。

その後、組での実際の同朋講座に添った形の時間配分で杉本昭典師に講義を頂き、引き続き藤栄行信師の司会で活発な話し合いがあり午後四時終了した。

質問のなかには「この同朋運動は真宗教団の歴史の上で教団のなかで差別され苦しめられてきた僧侶、門徒が提唱した運動か、また浄土真宗のご信心の中から必然的に生まれ出でる生活実践の運動なのか」と、受講者全員が運動の根本について考えさせられる質疑もあった。(二ページにテキスト内容の一部)

今年にはリクルート疑惑で明けた。経済戦争に生き残るために、企業



は技術や販路に不慮の開拓を策し、必要あれば悪徳・靈感商法も政界への賄賂をも辞せず、なりふり構わぬ戦略を考え出す。職場の戦士たちは連日切磋琢磨、絶えざる研鑽と工夫を強いられ、捨てられる。心身ともに消耗させられて、働き盛りに早逝する人も多いのである。

◆いま長寿社会に伴う老人問題や末期患者の介護が脚光を浴びているが、職場の厳しい試練にさらされている壮年層への対策こそ急務であると考えらる。◆次々に開発される新興団地に、宗門の手は急に及ばず、新規の寺院建立も困難な状況にある。熱心な門徒活動家による布教所の新設など、都市開教対策に熱い期待が寄せられている。◆しかし本山の施策を待つまでもなく、各寺の足許の門徒の壮年層・老年層の日常の布教対策に怠りはないか、それについてのある工夫こそが、もっと急務なのではないか。

教区だより 2月

1日(木) 門信徒大会準備部会・企画推進室会議 10時半～	10日(金) 第25回近畿同朋運動推進協議会総会 京都・洛兆
2日(木) 都市開教推進部会 2時～	14日(火) 基推委専門委員会 10時半～
3日(金) 社推協評議員総会 10時半～	14日(火)～16日(木) 別院常例 上田宏史師(大阪教区) 1時半～
4日(金) 社推協・ピハロー部会合同研修会 1時半～	17日(金) 組織教化団体連絡協議会 10時半～
5日(日) 推進員研修会 久堀弘義師(神戸湊組行願寺) 神戸中組教秀寺 名古屋	21日(火) 連研研究会 10時半～
6日(月)～7日(火) 中部・近畿仏徒連絡協議会 23日(木) 基推委総会 10時半～	25日(土)～26日(日) 教区仏徒一泊研修会 大谷本廟
7日(火) 別院仏徒常例 小滝信生師(備後教区) 1時半～	27日(月) 近畿地区仏徒運動推進懇談会 滋賀
如月忌法要(九條武子夫人を偲ぶ) 本山・阿弥陀堂 1時半～	

◆12月26日三十四組より出席の組長が別院で、記念事業についての懇話会や新無量寿堂申し込み報告などを中心に事務連絡。教化関係からの報告、依頼等四時に閉会し、引き続き別院北にある大野屋旅館で懇親会がもたれた。来賓には前総長の豊原大潤氏なども元氣な姿を見せられた。◆27日教区内の仏徒が中心となり毎年開かれる「年忘れヤングひろば」が別院で三十人が参加して行われた。会食やビンゴゲームもありプレゼント交換の時などそれぞれ包みを開ける度に歓声が上がり華やいだ雰囲気の中午後七時半散会した。◆1月1日神戸別院で午前七時より元旦会が修行的にされた。正信偈のおつとめのと御文章の元旦章、小滝輪番の年頭法話、御流盃の儀があり参拝された六十人のご門徒ともども新年のご挨拶を交わした。「元旦会満堂なりし別院に、轟き渡るいのちの偈よ」とご門徒の大久保さんがうたわれた。◆10日近同推役員会、二月



十日京都での総会及び今年度の事業計画等について協議

十日京都での総会及び今年度の事業計画等について協議◆14日16日別院常例講師は佐々木良憲師(神戸東組専念寺)ご講師の戦争体験のお話の時など、自分の息子さん思いをいたされておられる様子のお同行のお顔もありました。◆教区寺婦連盟委員会を別院で。連続学習会の中間報告、組活動報告書などについての協議、終了後近くで新年会ももたれた。お隣の方と坊守としての仕事の悩みなどの

生前のご苦勞を偲び、謹んでお悔み申し上げます。(敬称略)

神明組正覚寺衆徒
寺元 幸昭 12月26日
岡山南組浄光寺前住職
浄原 慶之 12月29日
揖尾東組福壽寺住職
神子 上恵龍 1月4日
姫路西組妙善寺前坊守
水田ミユキ 1月11日

加古川組稱尊寺衆徒
山田 慶隆 1月15日
神戸西組順照寺前住職
善本 秀暁 1月16日
神戸東組西方寺住職
藤山 義美 1月17日
揖尾東組浄光寺前坊守
檀特千代子 1月18日

「教区門信徒総結集大会」の名前をつけて下さい。(仮称)

参加予定人数は六百、参加費は千円。日程としては午前十時から受付が始まり十時半開会、式典、講演歌唱指導等があり午後三時の解散を予定しています。

修並びに四月三十日須磨にある陸学園の講堂で八百人参加予定の第十五回総会・神戸大会等について◆23日教区保育連盟役員会。東西真宗保育研修会報告や幼児教育振興共済金庫貸付申請など協議。

来月五日に若婦人の集い

来る三月五日(日曜日)「母・子育てに聞く―若婦人の集い―」が教区仏徒連盟の主催で、組・単位仏教婦人会の充実と次代を担う人材の育成を図るため、とのお話のテーブルもありました。◆20日教区仏徒連盟常任委員会、一月三十日開催の委員総会の協議事項について。三十周年決算報告や第九回世界仏徒大会など(写真)◆別院仏徒報恩講、講師は小滝輪番◆22日午前中・仏徒連盟常任理事会、午後連盟理事會。大谷一泊

組住職・寺族同朋講座テキスト」ともに生きる」は今年はじめ各寺に配布しましたが、講師研修会では詳細な説明があり参加者相互の確認を得た。その一部を掲載します。

しい説明があり参加者相互の確認を得た。その一部を掲載します。

浄土真宗の住職いろいろ

ア 僧侶は尊者 イ 二重人格 ウ 寺も商売



人としてのたえた傾向があったのも否定できません。

イ 俗世優先のくらしかた

食べてゆくための寺院経営。寺も商売」という考えかたです。今日のような経済社会では一面やむをえないことかもしれないが、ただそのように割切ってしまうていいものでしょうか。寺院経済のたてかたは別に考えてみなければなりません。僧侶が、何といても寺の本当の使命は「教化」です。「法輪転ズルトコロ食輪アリ。食輪転ズルトコロ法論ナシ」(道元)。目的と手段とがすりかわっていないかを顧みなければなりません。

「お速夜廻りに忙しくて研修どころか」住職の仕事が邪魔するような基幹運動など止めてくれ」という声を実際聞いたことがあります。いかがでしょうか。

ウ かくありたい住職

お念仏のおあじあいのなかでの日暮らしでなければなりません。「南無阿弥陀仏の主となる」日暮らしです。ですから、部落差別も、ほかの一切の差別も、お念

ア 聖域に逃避している住職

俗世間のことは一切拒否して、ひとり聖域にくらそうとする型の住職です。

G宗などの寺の門前には、そのことを宣言する石柱が立てられてあります。浄土真宗寺院にはもちろんそんな

石柱はないものの、しかし、意識やくらしかたとしては「不許入山門」と、みづから門を閉じている寺もあるのはありますまいか。寺門の隆盛と血脈の確立とをめざす上から、宗祖をさえ「愚禿」から「聖人」にまつりあげようとした覚如上人にして「葷酒」ならぬ

被差別民を宗門の外に排除しようとした「十三箇条制」があつても不思議ではありません。諸有の群生「具縛の凡愚」屠沽の下類「いし・かわら・つぶてのごとくなるわれら」を排除したところに真宗があるとすると、それはすでに少なくとも親

鸞宗徒の寺とはいえませんが、俗世間のこと、政治のこと、差別のことなどには、一切かわらないほうが、坊主らしい生き方としての住職もかなりあるのではありますまいか。

かつての真宗には、お念仏の望ましいありかたとして、かえって俗世間のこというとい生き方の人を妙好

今、お寺で



赤穂南組仏教壮年連盟発会式が昨年十二月十八日にわれ、法光寺門徒・庵奥清誠さんが次のような体験発表をされた。

創価学会

本日此のような席で、私の恥かしい体験談を発表させていただくのは、お聞き苦しいと思いますが、新興宗教の実態をお知らせすることによって、皆様のご参考になればと思います。あえて話させていただきます。

小学生時代は何時も教室や廊下に立たされていた出来の悪い私が、新興宗教の信者に弱点を見抜かれ、一度ならずも二度、三度くりげに回り道をした後、いろんな人との御縁によって、両親・先祖が歩んだ「真実の道」に戻らせていただき、今日幸せな日々を送っています。

一度目の回り道は、二十五年ほど前に心臓病で入院し、退院後、家庭で養生中に、創価学会信者と心安くなり、口車に乗せられました。姫路支部に同行し、日常使用する諸道具を購入し

て、帰宅途中、「通りやんせ」の歌詞の一節に「行きはよいよい、帰りは悪い」の通り、帰り次第、仏壇を処分せよとのこと。老姿と汗水流して働き手に入れた仏壇を、そうやすやすと灰に出来るものかと、家の敷居を跨がらずに、一度も広げたことのない創価学会の諸道具を同行者宅に置いて帰り、

お経を唱えるだけで「身内が後わずかな人生を苦しませるにあの世に行ける」ならと半信半疑で入会しました。今後は深夜の行もして、月二、三回信者宅を回り体験談を聞き、私の家にも二回来てもらいました。約半年後に大阪本部に行ってくれと依頼され、支部より約十人ほど参加し、そのうちの一人として行きました。

最後の回り道はPL教団の話しは口に出さず、これ以上入会していれば、大変なことになると思い腐れ縁を断ち切りました。

PL教団

本部では板場にゴザを敷いた上に座り、時間待ちをしていた時呼び出され、案内には「行っていらつし

回り道を二度も

今後はお念仏人生歩む

霊友会

約二時間ほどの短い信者でした。

二度目の回り道は霊友会です。同じ年月のころに、何に一つ不自由なく暮らしていた神戸在住の姉婿が、胃ガンで入院を繰り返して、霊友会赤穂支部の方と同席し、話し合いのなかで、市内には八百人余りの信者がいるとか、先祖の供養が足りない等、弱身につけ込まれ、

内されるままに付いて行った部屋は、畳の間で座布団の上にはお茶菓子が出されました。一、二分前から見れば天と地の違い、なぜにわたしがこのような特別扱いを受けるのかと疑問に思っていました。勧められるままにご馳走になっていたところ、「姉の所有してある広島土地を手放して百万円寄付してくれとの内容の話、霊友会の信者の腹づもりがわかり、姉にはこ

やい」の言葉で見送られ、さすが東洋一の火花や学生の態度、言葉使いには感心しました。奇麗な花には刺があるとのことわざ通り、九月の給料日から空の袋が私の手元に届けられ、年間十四回金子を入れて返していました。約二年続いている以上上司の方が死亡され、以後空袋と実入り袋の交換がなくなりしました。なお五年前、母親がPLの信者となり、約四百万円本部に預金していましたが、母親が

病気になる、是非お金が必要なため途中解約を申し込めました。支部に何回か合つても、契約期限が来ていないとの一点張り。

私には支部長に他の金融では途中解約が出来ない事を強く詰め寄り、やっと全額払ってもらった。手元には元金だけしか戻らず、再度利息について話し合ったが、本部では満期になつても一円の利息も付かないとのこと、話にはなりません。

目覚め

もともと仏教には特別に関心があつたわけではありませんが、本年二月大谷本廟一泊研修に参加させていただき、初めて過去の回り道に目覚める事ができたこととです。これからは二度と回り道をせず、浄土真宗の「み教」の声を、十分に聞かせていただいて実りのある一生を送りたいと思つていきます。

庵奥清誠

組連研を毎期受講して

私は赤穂南組内の連研時より一期二期三期と連続で受講しました。初めてのことでありました。三十歳代では隣保の同行の報恩講に各家をお参りして正信偈の勤めをし、ご住職より法話を聞き、皆様と同席したのが仏縁の最初でした。

去る夏の総代研修会に出席した時、ご講師のお話に「総代さんたち、これからさき何年生きられるのですか。やがて一人寝の淋しい夜が来るんですよ。今が大切ですよ。このことがわからないようでは門徒式章をはずして帰って下さい」と厳しいお言葉を受け、恥しい思いでした。

組内の連研五期では世話人会の一員になり、六期には毎回の講師の法話を聴聞することがうれしくてなりません。

六十一年十二月には門徒推進員になるための中央研修を大谷本廟で受講させていただきました。その後連研の世話人会員として活動しています。

赤穂南組 真寛寺門徒 藪内正一